

# 地域 スポーツ コミッション

REGIONAL SPORT COMMISSION INTERVIEW

インタビュー集

一般社団法人日本スポーツツーリズム推進機構

## Contents

- 01/ 金沢文化スポーツコミッション 代表 平 八郎 氏  
— ホテル総支配人の経験と人脈を生かして、地元を盛り上げたい —
- 02/ 一般社団法人 ツノスポーツコミッション 代表 石原 英明 氏  
— プロチームで育んだ人脈が地域とスポーツをつなぐ —
- 03/ 株式会社 銚子スポーツタウン 代表取締役CEO 小倉 和俊 氏  
— 地域資源とスポーツの融合で経済効果を目指す —
- 04/ 一般社団法人 志摩市スポーツコミッション 事務局長 大山 純輝 氏  
— 地域への思いを軸に風光明媚な半島にスポーツで人を呼ぶ —
- 05/ 一般社団法人 土佐町スポーツコミッション 専務理事・事務局長 古賀 智志 氏  
— 湖を核としたスポーツ資源をマネジメントで生かす —

本報告書は、スポーツ庁委託事業として、一般社団法人日本スポーツツーリズム推進機構が実施した2022年度「地域スポーツコミッション基盤人材育成サポート事業」の成果の一部を取りまとめたものです。従って、本報告書の複製、転載、引用等にはスポーツ庁の承認手続きが必要です。

# ホテル総支配人の経験と 人脈を生かして、 地元を盛り上げたい

金沢文化スポーツコミッション 代表 平八郎 氏

LOCAL  
石川県  
金沢市



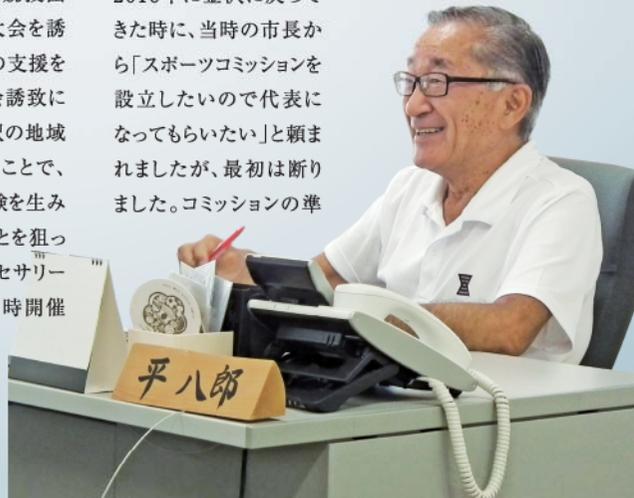
今回は、2018年7月に設立された金沢文化スポーツコミッションの代表である平八郎氏から、設立時に代表に就任した経緯や活動において重視していること、今後の展望などについてお聞きしました。

## Q コミッションの概要と特徴を教えてください。

スポーツコミッションの役割として、地域資源を活用して地域活性化に寄与するということがあります。ここ金沢市で地域資源というと、文化という意味合いが強く、多様性に満ちていて幅が広く、重層的で深いものがあります。金沢文化スポーツコミッションは、名前に「文化」を入れているように、スポーツと地域の個性である文化との連携が基盤になると考えています。コミッションの特徴は、地元の競技団体の支援を重視していることです。全国大会を誘致した際には、主催者より地元の団体への支援を手厚くする制度を設けていて、これが大会誘致に対するモチベーションになっています。金沢の地域資源である文化とスポーツを融合させることで、金沢らしい、金沢でしかできない演出、体験を生み出し、ファンを増やし、観光にもつなげることを狙っています。大会参加者に茶道や水引アクセサリ製作、金箔工芸といった体験イベントを同時開催したことは、関係者にも好評でした。

## Q 現在の役職に就くまでの経歴と、コミッションで就業することになったきっかけを教えてください。

自分は、長くホテル業界で仕事をしていて、最初は経理関係、その後は、名古屋や札幌、沖縄など全国で総支配人をしてきました。その中でも金沢にいた期間が長かった。2016年に金沢に戻ってきた時に、当時の市長から「スポーツコミッションを設立したいので代表になってもらいたい」と頼まれましたが、最初は断りました。コミッションの準



金沢駅前 鼓門



グループホテルでNo.1に

## 地元の産業を生かし、関わりを深めていく

備委員会が発足した時に声がかかり、出席だけならと思っていましたが、補助金の制度設計のことで、地元の競技団体ではなく、誘致される側の大会主催者、中央の競技団体にお金が入る説明を聞いた時に「地元の団体にお金が入るべき」と異議を唱えてしまい、関わらないわけにもいなくなってきました。金沢にスポーツコミッションが必要なかという疑問もありましたが、当時の金沢のホテル業の需給予測から来訪者を増やす新たな一手が必要という状況がありました。そのような中で、自分のことを「0もしくはマイナスから」を生み出せる人」と見込んでお願いしている何度も頼まれるうちに、コミッションで金沢市への来訪者を増やすことができるかもしれないという期待や、何か新しいことにチャレンジする魅力、将来の子供達のためにしてあげられることがありそうという予感から、引き受けることにしました。兼務でもよいという話もありましたが、自分としては、やるなら本腰を入れて、ということで、ホテルをやめて代表を引き受けることにしました。収入は大きく下がりましたが、後悔はしていません。

## Q コミッションにおける役割を教えてください。

ホテル業の頃から、自分は、前例に囚われない新しいことが面白いと思ってやってきました。それが、採算が悪いホテルの立て直しにもつながっていたと思います。とにかく面白いと思えるアイデアを出して企画することが自分の役割と考えています。同じイベントでも、次には少しでもやり方を変えていくことで、ノウハウの幅が広がることになります。コミッションとしては、大会誘致への補助を出していますが、イベントの中で金沢らしいものを取り入れる工夫をしています。メンバーにも、団体との連携を深めることに加え、企画を考えることができるよう、様々な体験をしてもらっています。

## スポーツと地域の個性である 文化との連携が基盤に

## 金沢市の継承と革新をあわせて続けていく



バドミントン大会で金箔貼り体験



フットサル大会で記念品(金箔ボール)贈呈

## スポーツコミッションを 金沢市で根付かせたい

**Q** コミッションで働く魅力ややりがいは何ですか。

大会に参加した人たちが喜んでる顔を見るのが、何よりのやりがいになります。地元の産業を生かしたトロフィーやグッズを作ることで、地元の幅広い人たちが関わり、喜んでくれます。外から大会に来た人も、ありきたりではない賞品を目にしてとても喜んでくれます。若いメンバーには、失敗しても良いので、自分が面白いと思えることにチャレンジしてもらっています。SNSの活用や商品開発などは、任せたことで成功し、コミッションの収入源にもなっています。

**Q** コミッションで働く難しさは何ですか。

スポーツコミッションという言葉自体、まだまだ認知度が低く、スポーツ団体からも、地元の人たちからも、何をしている組織なのか分からないのが現状。各競技団体に何度も訪問してねばり強く理解を得る必要がありました。一度コミッションの支援を受けた団体は、何度も利用してくれますが、まだ競技に偏りがあります。設立当時は、もっといろいろなことを進めたかったのですが、コロナの影響は大きく、大会などがほとんど中止になってしまいました。2022年度に入って、ようやくイベントの数も増えてきましたが、まだまだ思うようにはできません。とはいえ、できない理由を並べるのではなく、どうやったらできるか、ということを常に考え、工夫を試みています。

**Q** 何か面白いエピソードがあれば、教えてください。

やはり、金沢の強みである文化を生かしたもの。例えば、アンサンブル金沢というプロオーケストラに、プールの上で演奏してもらったこともあります。弓道と茶道のつながりを体験したり、卓球大会でラケットに金箔貼りをしてもらったり、ソフトボール大会で和太鼓演奏、飛込と横笛の競演、ヨガとコーラスなど、今までなかったようなコラボを企画して、実現のために工夫しています。

**Q** 今後取り組みたいことは何ですか。

設立当時は、第一に大会誘致、第二にはアマチュアスポーツの周辺でビジネスを生み出せるようにすること、その後は、国際的な健康都市認定制度である「グローバル・アクティブシティ」を目指し、金沢市で認定を取ることを目標としていましたが、コロナ禍で大会誘致がやっという状況でした。ようやく誘致件数も増えてきたので、そろそろ次の展開を考えていきたいです。まずは、スポーツコミッションを金沢市で根付かせて、自分がある間に強固な体制をつくっておきたいと考えています。金沢市は伝統あるまちですが、伝統は守るだけでは衰退してしまう。継承と革新をあわせて続けていくことが大切で、その気概を金沢市は持っていると思うので、上手に進めていく土壌はあると思います。そういった気風が、自分がコミッションの代表を引き受けた理由の一つにもなっています。



今後スポーツコミッションに関わりたい方に一言

“学生の就職先にしたい。”

大学でスポーツマネジメントを学んでいる学生の中には、地域のスポーツコミッションで働きたいと思っている人もいます。スポーツコミッションが、そういった学生の就職先になれるとよいと思います。現在のコミッションの活動規模では、まだ受け皿としては難しいですが、全国各地でコミッションが立ち上がる中で、すそ野が広がっていくことを期待します。

PROFILE

金沢文化  
スポーツコミッション  
代表 平八郎氏



- 1959年 ▶ 東京都出身
- 1983年 ▶ 慶応義塾大学卒業  
(体育会サッカー部)
- 1986年 ▶ 全日空ホテルで働く
- 2004年 ▶ 金沢全日空ホテル 管理部長
- 2008年 ▶ ANAクラウンプラザホテル金沢  
総支配人
- 2016年 ▶ リージョナル総支配人  
(金沢・富山 ほか)
- 2018年 ▶ 退職(6月)
- 2018年 ▶ 金沢文化スポーツコミッション設立  
代表就任(7月)

# プロチームで育んだ 人脈が地域と スポーツをつなぐ

LOCAL

宮崎県  
都農町

一般社団法人ツノスポーツコミッション 代表 石原英明 氏

今回は、2019年4月に設立されたツノスポーツコミッション(以下、ツノSC)の代表である石原英明氏から、立ち上げまでのスポーツとの関わりや、運営に関わった人脈、活動における苦労や活動において重視していることなどについてお聞きしました。

## Q コミッションの概要と特徴を教えてください。

ツノSCは、スポーツを活用して人・事業・企業を呼び込み、地域課題を解決することを目指し、2019年に設立されました。活動の中心になったのは、宮崎市を拠点に活動していたサッカークラブ(現・ヴェロスクロノス都農)を都農町に誘致したことです。都農町、ヴェロスクロノス都農、ツノSCの三者で「つの職育プロジェクトに関する連携協定」を締結し、地域活性化プロジェクトをすすめています。チームの拠点を都農町に移転することで、トップチームの選手・スタッフ・家族が2年間で約100名移住し、高齢化と人口減少が進む都農町にとっては、大きなインパクトのある若者の転入となりました。選手の一部は地域おこし協力隊として都農町に着任しており、サッカー選手として活躍する一方で、地元の農業の支援や空き家活用などの地域協力活動に従事しながら、各々の職業スキルを磨いています。また、高校生年代を中心とした育成機関であるツノスポーツアカデミーを設立、寮生活

をおくる若者を、地域をまきこみながら育成しています。ツノSCの現在進行中の事業は、人材育成としてのツノスポーツアカデミー、移住定住対策事業、労働力対策としての農業支援事業があります。

## Q 現在の役職に就くまでの経歴と、コミッションで就業する(コミッションを立ち上げる)ことになったきっかけを教えてください。

自分の出身は岐阜県岐阜市ですが、スポーツに興味があったので、早稲田大学の人間科学部スポーツ科学科に入学し、スポーツ組織論を学び、大学院まで進みました。卒業後、地元に戻ってJリーグの加盟チームであるFC岐阜のスタッフとして就職しました。FC岐阜では、ホームタウン活動など、地域貢献を推進する部署に配属され、地域イベントの企画立案やボランティアとの調整をしていました。ここで、当時代表をしていた今西和男さんと出会ったことが、自分の人生を大きく変えることになりました。今西さんは、人材育成を重視しており、サッカークラブがあることで、地域にどのような貢献ができるかをいつも考えている人でした。自分は、今西さんから様々なことを学び、それが現在につながっていると思います。ツノSCの設立には、他に宮城亮、河野佑介が関わっていますが、皆、今西さんの元で働いた仲間です。2013年からは、岐阜県内で独立してスポーツクラブを立ち上げ、スポーツ施設の管理や障害者スポーツの普及に関する事業などをしていました。2017年に、河野から声がかかったことがきっかけで、JリーグのV・ファーレン長崎の運営に関わり、その後鹿児島県の方でも働いていましたが、そのころ、既に都農町と関わりを持っていた宮城に誘われて、ツノSCの事務局長を引き受けることになりました。ここ都農町で、岐阜で今西さんの薫陶を受けた三人が再び集まり、活動がスタートしました。



## 地域のコミュニティにおける関係づくりが重要と考えています。

## Q コミッションにおける役割を教えてください。

自分は、代表になってからは、あまり細かいところに入り込まずに、アカデミーや移住定住対策、農業支援といったグループのリーダーに現場を任せ、彼らが上手くマネジメントできるようにコントロールしています。コミッションの代表としては、スポーツに限らず、地域における幅広い分野の組織や団体との接点を作る役割も重要なので、いろいろなところに顔を出して交流して、連携するためのきっかけを作っておくようにしています。行政との関わりは大きく、様々な連絡・調整を行っています。地域の事業者との関わりもあり、最近では、近隣の自治体の青年会議所ともつながりを広げています。自分たちの活動を周囲に理解してもらうためには、地域のコミュニティにおける関係づくりが重要と考えていて、その役割を自分が担っています。宮城や河野は、様々なアイデアを出して実現していくことが得意で、自分は、それを調整していく役割を担っている、このあたりの役割分担は上手く機能していると思います。

## 高齢化などの課題と スポーツによる活性化の組み合わせの良さ

### Q コミッションで働く魅力や やりがいは何ですか。

ここ都農町では、様々な活動にチャレンジできる環境には恵まれていると感じています。人口1万人程度の地方都市で、高齢化、人口減少が大きな課題の中で、スポーツによる活性化という組み合わせは相性が良いと思います。合意が得られれば、手早く取組を進められる、というのは小さなまちの特徴かもしれません。現在の自分の役割としては、いろいろな取組にマネジメントとして関わっていきことも面白いと感じています。



道の駅つこの物産館「門前市場」

### Q コミッションで 働く難しさは何ですか。

ツノSCは、スポーツを使って地域のためになることをしたい、と考えているわけですが、実際何をしている組織なのかを町の皆さんに認知してもらうのはなかなか難しいです。また、活動においては行政との関係が重要ですが、行政の担当者は異動が多く、継続的に設立趣旨や背景を引き継いでもらう難しさもあります。自分たちはもともと都農町の人間

ではありません。組織の役割や理念が伝え切れていないために、誤解を受けてしまうこともあります。活動がはじまってまだ数年ですし、活動内容も、人材育成を含め短期的にわかりやすい効果が出るものではないので、組織として地域全体に受け入れられている、という状況ではないと思います。存在や活動を少しでも知ってもらうために、「つのおこ新聞」の発刊やSNS、Youtubeを活用した活動報告や都農町の魅力発信を続けています。



つのおこ新聞

### Q 今後取り組みたいことは 何ですか。

今までのところ、ツノSCの運営では、地域おこし協力隊の制度を活用して人件費や活動費の一部を賄っています。自分達スタッフやサッカークラブの選手も地域おこし協力隊として活動しています。ツノSCの活動内容が地域おこし協力隊の制度と合っているからできることではありますが、将来的には、この仕組みに頼らなくても自立して運営できるようにしなければと考えています。ツノSCは行政が行うべき公益的な役割も担っているのので、できる限り行政との協働を図り、さらには地域の民間企業の手も借りながら、地域全体のまちづくりに向けた取り組みとして発展させていきたいと考えています。

### 地域おこし協力隊とは？

都市地域から過疎地域等の条件不利地域に住民票を異動し、生活の拠点を移した者を、地方公共団体が「地域おこし協力隊員」として委嘱。隊員は、一定期間、地域に居住して、地域ブランドや地場産品の開発・販売・PR等の地域おこしの支援や、農林水産業への従事、住民の生活支援などの「地域協力活動」を行いながら、その地域への定住・定着を図る取組。(総務省HP参照)

### 今後スポーツコミッションに関わりたい方に一言

#### “ スポーツの価値を 見出していく意識を持って ”

自分の活動のモチベーションになっているのは、かつて同じ人に育ててもらい、同じような感性、志を持った人と一緒に活動できているということです。大学でも職場でも、尊敬できる人や、気の合った仲間とのつながりは、一生大切にすべきと思います。スタッフの中には、岐阜FC時代に一緒に働いていた人が来てくれたりもしています。スポーツコミッションの活動の成果は、短期間で出るものではないと思っています。活動の理念は、スポーツを使って地域活性化を目指すことではありますが、スポーツが大好きというだけでは地域で理解されませんし、地域活性化のためにすべてをかけて、という意識が強すぎても、疲れてしまい長続きしないのではと思います。日本におけるスポーツコミッションの歴史はまだ浅いので、いろいろなことを試行錯誤しながら、その地域の中でのスポーツの価値を見出していき意識を持って関わっていくのがよいのではないのでしょうか。

### PROFILE

一般社団法人  
ツノスポーツ  
コミッション 代表  
石原英明 氏



- 1984年 ▶ 岐阜県岐阜市出身
- 2008年 ▶ 早稲田大学大学院  
スポーツ科学研究科修了
- 2008年 ▶ FC岐阜で地域貢献推進部に所属
- 2013年 ▶ IGSユニバーサルスポーツクラブ設立  
岐阜経済大学で非常勤講師  
岐阜県サッカー協会理事など
- 2017年 ▶ V・ファーレン長崎で  
ホームタウン事業など
- 2018年 ▶ コミュニケーションパートナーで事業部長  
サッカークラブ運営など
- 2019年 ▶ ツノスポーツコミッション設立  
事務局長
- 2020年 ▶ ツノスポーツコミッション  
代表理事就任

ここ都農町では  
様々な活動に  
チャレンジできる



03

## 地域資源と スポーツの融合で 経済効果を目指す

株式会社銚子スポーツタウン 代表取締役CEO 小倉和俊 氏

LOCAL  
千葉県  
銚子市



今回は、株式会社銚子スポーツタウンの代表取締役CEOである小倉和俊氏から、スポーツコミッションの設立経緯や、スポーツコミッションで働くやりがいや難しさ、今後の展望などについてお聞きしました。

### Q コミッションの概要と特徴を教えてください。

銚子市は、本州最東端で大きな海が見渡せる犬吠埼、東洋のドーバーと呼ばれる屏風ヶ浦、坂東太郎の異名で水量が豊富な利根川があり、自然景観に恵まれています。また、日本一の漁獲量を誇る水産業のまちであり、おいしい魚料理を楽しめるまちでもあります。銚子スポーツコミュニティ

(以下、銚子SC)は、こうした地域資源を生かしたスポーツによる地域活性化を目指し、有志のサイクリング仲間により設立しました。近年、市の人口は減少が続いており、東日本大震災以降は、観光客も大きく減少していました。そこで、マラソン大会やトライアスロン大会、サイクリング大会の企画・開催することで、域外から人を呼び込み、経済効果を生むことで地域の活性化を目指しています。また、2018年には銚子市との第三セクターである株式会社銚子スポーツタウンを設立し、旧銚子西高等

学校をリノベーションしたスポーツ合宿施設「銚子スポーツタウン」の管理運営をスタートしました。イベント開催や合宿誘致をすすめる他、近年では銚子特有のマリンアクティビティ「屏風ヶ浦シーカヤック」「ちょうしイルカウォッチング」とも連携し、地域内外の利用促進を図っています。

Q 現在の役職に就くまでの経歴と、コミッションで就業する(コミッションを立ち上げる)ことになったきっかけを教えてください。

自分は、水道会社の経営者で、スポーツ業界にいたわけではありません。2007年6月に、先輩からサイクリングに誘われました。仕事が終わってから、毎週、利根川沿いを走るうちに、仲間も2人から15人に増えました。今思えばこれがコミッションにつながるきっかけだったと思います。仲間が全国の大会に出るようになっていく中で、業界は違っても、自分を含めて経営者たちだったからか、大会に出て自分たちが使うお金と参加者の人数を考えるとすごい経済効果になることに気づきました。そして、これを銚子でもできれば、地域の活性化につながるかもしれないと思っていました。銚子は、かつては漁業や農業、醸造業が盛んでしたが、最近では、人口が減少して、経営者仲間も危機感を感じていたところでした。2011年10月24日



経営している水道会社の職員と

に読んだ新聞記事に、スポーツで観光振興を図ることが書かれており、大規模なトライアスロン大会では3億円以上の経済波及効果があると試算されていました。これで確信を持ち、商工会議所や観光協会の記事を紹介しましたが、なかなか主体となる組織ができなかったため、日本スポーツツーリズム推進機構(JSTA)のアドバイスを受け、2014年に、自転車仲間や商工会議所の方々と一緒に、NPO法人銚子スポーツコミュニティを設立し、自分が理事長になりました。

## 利根川沿いを走るうちに 仲間も増えました

Q コミッションにおける役割を教えてください。

自分は、水道会社の経営者もしているのですが、働いている時間としてもコミッションと半々ぐらいです。役割としては、マネジメント全般で、個々の業務では、それぞれ責任者を配置して、その方たちへの指示や調整を行っています。あとは、行政や地域の様々な組織や銀行などとの折衝があります。活動の方向性などは自分で企画したものをコミッションのメンバーと相談しながら決めています。設立以降、国の補助金をいただいているのですが、そのための申請やプレゼンもしています。



長崎海岸をサイクリング

## デジタルやテクノロジーと融合した 新しい取組を手掛ける



「超人スポーツ」が体験できる



誘致した野球合宿

### Q コミッションで働く魅力や やりがいは何ですか。

銚子市は、もともと高校野球が盛んで、木樽正明さんや、篠塚和典さんをはじめプロ野球選手も多く輩出しています。コミッションの活動の中で、彼らのような郷土の英雄が、故郷を元気にするために関わってくれるようになったことは非常に喜ばしいと思っています。個人的には、彼らに会えるだけでもうれしいです。野球を中心に考えていましたが、バスケットボールの利用者も意外と多く、スポーツを通じて幅広い展開ができると思うようになってきました。今は、デジタルやテクノロジーとも融合させ、超人スポーツなど新しい取組を手掛けています。国の「デジタル田園都市構想」にも採択され、補助金をいただいています。

### Q コミッションで 働く難しさは何ですか。

スポーツ合宿施設の運営をしていますが、コロナ禍で、特に最近の2年間は、宿泊者からのキャンセルの連絡が連日のように届いて、大きな損失があり

ました。経済効果を期待している分、不測の事態での被害も痛かったです。台風の被害で施設が破損してしまうこともありました。今後は、組織の後継者を育てていくことも必要と考えていますが、なかなか難しいです。

### Q 特に印象的なエピソードが あれば、教えてください。

銚子スポーツタウンができる経緯の中で、木樽さんと一緒に、地元の野球を復活させようという思いを語り合いました。廃校になっていた旧銚子西高校をスポーツ合宿施設として使えないかということ、見に行った時に「銚子商業のグラウンドより良い芝だ」と言われました。部室棟などの施設も利用可能ということで、活用に向けた企画書を書きました。多くのプロ野球選手を輩出してきた背景、銚子港の新鮮な水産物、キャベツなどの農産物を関係させていけば、地域の活性化に結び付けられると確信しました。この企画書は、市の計画や銀行の意向ともマッチし、マーケティング調査でも、高校野球のチームで「是非宿泊したい」「検討したい」という回答が多く、実現に向けて大きく前進しました。

### Q 今後取り組みたいことは 何ですか。

銚子スポーツタウンは、高校野球の合宿をメインとして考えていたので、学校が休みの時期に利用が限定されるビジネスモデルでしたが、テクノロジーを利用したスポーツを展開することで、平日も含めて稼働率を上げることが今の目標の一つになっています。現在は、超人スポーツの機器である「スピリット オーバーフロー」を展示していつでも体験できるようにするなど、他の地域にはないものを積極的に取り入れていきたいです。



## プロ野球選手輩出の 歴史と地元の農業・漁業の 強みを活かし地域を活性化



今後スポーツコミッションに関わりたい方に一言

「マーケティングが重要」

新しい取組を考える際には、自分がやりたいことも大切ですが、その地域でスポーツがビジネスで成り立つかどうか、人と人との関係についても十分に調べるマーケティングが重要と考えています。地域のためになる取組であっても、ボランティアでは長続きはしません。ビジネスとして収支が取れていることが必要です。自分は、会社経営の時から、自分だけが儲かるのではなく地域全体が活性化することが大切と親に言われていました。その考えは、特にスポーツコミッションの事業を考える時に生きていると思います。

#### PROFILE

株式会社銚子  
スポーツタウン  
代表取締役CEO  
小倉和俊 氏



- 1965年 ▶ 千葉県銚子市出身
- 1989年 ▶ 日本大学卒業
- 1989年 ▶ 習志野市内の水道工事店で働く
- 1991年 ▶ 家業の水道工事会社を継ぐために銚子市に戻る
- 2007年 ▶ サイクリングにのめりこむ 全国の大会へ参加
- 2011年 ▶ スポーツで地域の経済効果を生むことを考える
- 2014年 ▶ NPO法人銚子スポーツコミュニティ設立 理事長に就任
- 2017年 ▶ 株式会社銚子スポーツタウン設立 代表取締役CEO

## 地域への思いを軸に 風光明媚な半島に スポーツで人を呼ぶ

一般社団法人志摩市スポーツコミッション 事務局長 大山純輝 氏

LOCAL

三重県  
志摩市



今回は、志摩スポーツコミッションの事務局長の大山純輝氏からスポーツコミッションの事務局長になるまでの経緯や、スポーツコミッションの活動において意識していることや働くやりがいなどについてお聞きしました。

### Q コミッションの概要と特徴を教えてください。

伊勢志摩エリアは、三重県の志摩半島南部に位置し、伊勢志摩国立公園や特徴的なリアス式海岸など風光明媚な景観が多く、海産物も豊富で昔から観光客が多く訪れるまちです。志摩スポーツコミッション（以下、志摩SC）は、

この地域特性を背景に「スポーツの力」を生かしたまちづくりを行っています。設立は2013年で、現在はスポーツイベントによる地域活性化と、サイクリングツーリズムの普及活動を主な活動としています。代表的なイベントとしては、伊勢志摩・里海トライアスロン大会があり、地元の自治会をはじめ地域の様々な団体と連携して大会運営を行っています。子供たちを含め多くのボランティアに大会運営に参加してもらっている点の特徴です。またその他にも、志摩の美しいビーチを生かした、ビーチサッカーやビーチラグビーのイベントを開催しています。

参加チームに対しては、イベント参加に加えて合宿の誘致も推進しています。サイクルツーリズム普及活動としては、レンタサイクルやガイド付きサイクリングツアーを実施。市内にサイクルラックを増やす活動や、サイクルツーリズムに関する情報発信も行っています。

Q 現在の役職に就くまでの経歴と、コミッションの事務局長に就任することになったきっかけを教えてください。

私は志摩市出身で、家業は伊勢エビ漁をしていました。水産高校卒業後、大阪に出て建築関係の専門学校に通い設計事務所でも働いていましたが、1年ほど働いた後、地元の先輩からの誘いで志摩に戻り、WEB制作会社での仕事をスタートしました。制作会社では、営業・デザイン制作・サイトの運営など幅広い業務を担当し、このようなスキル経験は現在のコミッションでの業務にも役立っています。志摩SCの仕掛け人は、前事務局長である石本でした。彼が中心となってスポーツによるまちづくりを提唱し、商工会を巻き込みながら組織を立ち上げ、民間主導のスポーツコミッションが設立されました。仕事上のつながりがあったことがきっかけで、勤務している制作会社からコミッションに向向者を出すことになり、その出向者のひとりとなったことが私とコミッションとの関わりのスタートです。当初、出向期間は1年間の予定でしたが、後任も見つからない中道半ばで去るわけにはいかず、転籍しスポーツコミッションで働くことになりました。もともとスポーツを専門でやってきたわけではなかったですが、水産高校時代、サーフィンやヨットなどのマリンスポーツに触れる機会からスポーツは好きでしたし、スポーツイベントの運営を通じ、子供たちの笑顔を見られることをやりがいを感じていました。その後、初代の事務局長の石本が、実家の家業の関係で退任することになり、立ち上げ時から共に活動してきた自分が、事務局長に就任しました。



志摩パールブリッジ

## 志摩市の観光と スポーツを結び付ける

Q コミッションにおける役割を教えてください。

数少ないメンバーで活動しているので、関わる業務は何でも行っています。イベントは実行委員会形式で開催することが多いですが、企画は、ほぼ志摩SCの事務局が担っています。前職の経験を生かして、ポスターのデザインや、HPの作成などを行うこともあります。スポーツイベントの企画の際に重視しているのは、参加者に志摩の良いところを知ってもらい、志摩のことを好きになってもらうことです。また、地域の人と関わりを持ってもらうことも重要だと感じています。スポーツを通じて志摩に足を運んでもらうことはもちろん、大会を通じてボランティアなど実際に地域の人と交流してもらうことで、大会に対しての満足度も上がり、「また、志摩に来たい」というリピーターにもつながると考えています。例えばトライアスロン大会を例に挙げると、スポーツ大会としての運営部分は、レースディレクターと審判に完全にお任せしています。その分、参加者にどうしたら喜んでもらえるか、地域によりお金を落としてもらえるか、ファンになってもらえるか、という観点でイベントを考え、地元の人と協力した「おもてなし」を実現させることが志摩SCの役割だと考えています。



## 志摩市を選び、この大会を選び 遠くから多くの人に来てくれること



自身で作成したイベントポスター

### Q コミッションで働く魅力ややりがいは何ですか。

大会の参加者が喜んでくれることが、何よりのやりがいです。例えばトライアスロン大会で、ご夫婦が笑顔で一緒にゴールするシーンを見たときは、とても感動しました。大きなイベントの準備にはいろいろな調整や作業があり、半年以上の準備期間を要するものもありますが、全国の数ある大会の中からこの大会を選び、志摩を選び、志摩を訪れてもらうことで、すべて報われる気持ちになります。志摩を選んでくれたことに対して、最大限の恩返しをしていかなければと考えています。



横山展望台からの英虞湾

### Q コミッションで働く難しさは何ですか。

イベント収入や委託事業収入などで組織を運営していますが、自分の他にわずかなスタッフをなんとか雇用できている状況です。今後、事業が上手くいかなければ倒産してしまう可能性もありますし、常に試行錯誤の中で運営を続けていくのは、正直プレッシャーを感じることもあります。設立当初は、スポーツコミッションに対する地域の理解がなかなか得られず、各種団体との調整も大変でした。現在は知名度も上がり、自治体をはじめ活動を応援してくれる団体が増えてきています。

### Q 特に印象的なエピソードがあれば、教えてください。

2019年より、夏季限定で海水浴場にある海の家の運営とマリナクティビティの提供を行っています。この事業には地元の皇学館大学の学生にも協力をしてもらいました。学生が企画した事業を行うため自らクラウドファンディングを立ち上げ一から十まで自分たちで考え、実施してくれました。新鮮なアイデアがたくさん出て、とても有望な若者たちが地元にもいることがわかりました。彼らとはいろいろな話をしましたが、将来の夢をしっかりと持っていて、頼もしく感じました。

### Q 今後取り組みたいことは何ですか。

志摩のような地域では、就職にあたっても業種が限られてしまいます。コロナ禍は余裕がなかったですが、いくつかのイベントが軌道に乗ってきており、スタッフを増やせるようになってきています。今後は、海の家の運営に関わってくれたような若者が、就職先としてスポーツコミッションを選んでもらえるようになるといいですね。スタッフを増やし、より活動の幅を広げていきたいです。

### 今後スポーツコミッションに関わりたい方に一言

“ 地域に認められる存在になることが重要。 ”

自分のようにスポーツの経験がなくても、地域を良くしていきたいという想いのある人に「スポーツの力を活用して何ができるか」という視点で関わってもらいたいと思います。特に重要なのは、コミュニケーションスキルでしょうか。行政担当者はもちろんですが、商工会や自治会、学校、子供たちなど幅広い関係者と良好な関係を築いていくことで、地域に認められる存在になることが、活動において重要になります。

### PROFILE

一般社団法人  
志摩市スポーツ  
コミッション 事務局長  
大山純輝 氏



- 1987年 ▶ 三重県志摩市出身
- 2006年 ▶ 三重県立水産高等学校卒業
- 2008年 ▶ 大阪で建築関連の会社で働く
- 2010年 ▶ 志摩市に戻り、WEB制作会社に勤める
- 2013年 ▶ 志摩市スポーツコミッション設立時にスタッフとして参加
- 2018年 ▶ コミッションの事務局長に就任

## 常に試行錯誤 運営を続けていくのは プレッシャーを感じることも



## 湖を核とした スポーツ資源を マネジメントで生かす

一般社団法人土佐町スポーツコミッション 専務理事・事務局長 古賀智志 氏

LOCAL  
高知県  
土佐町



今回は、土佐町スポーツコミッション専務理事・事務局長の古賀智志氏から、スポーツコミッションに着任するまでの経緯や働くやりがいなどについてお聞きしました。

### Q コミッションの概要と特徴を教えてください。

高知県土佐町は、四国のちょうど真ん中に位置し、森林率87%の豊かな山林に囲まれた自然豊かなまちです。西日本一の貯水量を誇る早明浦ダム（さめうら湖）を有しており、それらを地域の誇れる独自資産、観光資源として再定義したことが、コミッ

ション誕生のきっかけとなりました。さめうら湖は広大で、しかも風や波の影響を受けにくいことから、カヌーに着目し地域振興の推進力にするチャレンジがスタートしました。2018年にカヌー先進国であるハンガリーから元世界チャンピオンのラヨシュ・ジョコシュ氏を招聘、地域の児童・生徒を対象に競技カヌーのクラブチーム「さめうらカヌーアカデミー」を創設しました。さらに2020年には艇庫にガイドツアーなどツーリズムの拠点機能を備えた「さめうら

カヌーテラス」が竣工し、競技スポーツとレジャーの両輪でカヌーを通じたまちづくりを推進するインフラが整いました。これら土佐町が中心となって手掛けてきた様々な取り組みを効果的かつ機動的に推進することを目的に2021年4月、一般社団法人土佐町スポーツコミッションが設立され現在に至ります。

### Q 現在の役職に就くまでの経歴と、コミッションで就業することになったきっかけを教えてください。

大学まで福岡で過ごし、卒業後、医療機器メーカーのテルモ株式会社に入りました。入社後10年ほどは病院向け製品の営業部門で九州や首都圏を中心に活動、それから東京本社に異動し人事を皮切りに広報、さらにはドイツに本社があるグローバル企業とのジョイントベンチャー経営にたずさわるなど、いわゆるコーポレートスタッフとしていろいろな経験をさせてもらいました。今回、自身のキャリアを振り返って、何がコアといえるのか？ひと昔前の典型的な（近年は評判の悪い）ジェネラリスト？などと自問してみたものの、はっきりとした答えは出てきません。ただ、今の自分から振り返ってみて、いくつか思いあたることは見つけました。最初に思い浮かんだのは「面談」です。医師との面談、新卒採用時の学生面接、エンジニアや海外経営人材のキャリア採用、国内・海外の機関投資家とのリレーションなど、私の仕事は、年間数百から数千の「面談」で覆いつくされていました。二つ目は「プロジェクトマネジメント」です。採用計画、事業戦略、世界に点在するオフィスや工場をむすんだ商品開発など、多種多様なプロジェクトを担当者として、また責任者として経験しました。最後は、これらを通じてあらゆる職種、国籍の人々と仕事をしてきた「なんでも屋」とでもいえる経験でしょうか。何となくこれらの要素は今の糧になっているような気がします。さて、今の仕事に就くきっかけですが、いくつかの



さめうら湖

偶然のたまものとしか説明できません。まず、子育てがひと段落した頃、妻が突然大学に入り直しました。スポーツを通じた地域振興が主な専攻テーマで、このことをきっかけに家庭での話題が大きく様変わりしました。これまで、「多種多様な経験」などと述べてきましたが、所詮ビジネスの世界からしか世の中を見ていなかったことを痛感させられました。その妻が大学院卒業を前にして自身の就職先を探していたところ、在学中に自由研究でたまたまお世話になった土佐町在住の方のSNSで「コミッション事務局長公募」の情報をキャッチ、募集要綱には、組織運営、人事、広報、英語などの言葉が散りばめられてあり、気がつけば妻を通り越して翌日には私が履歴書を書いていました。

### 経験が役に立ちそうと直感的に応募



## 土佐町=コンパクト=仕事の魅力とやりがい



スタッフとの打合せ



さめうら湖のパトロール

### Q コミッションにおける役割を教えてください。

私は理事4名のうち唯一の常勤理事(専務理事)として事務局長を兼務しています。まだ発足間もないベンチャー法人ですから、草創期を乗り越えて地域に根差した確固たる組織に成長していくには多くの困難やハードルが待ち構えています。中長期の経営戦略を練り、事業ポートフォリオに関するリサーチや提案をまとめ、持続的な経営基盤を構築していくことが一番の役割だと思っています。日々の管理業務、カヌー関連事業の運営などについては、町役場から派遣されている事務局次長が抜群のサポートをしてくれていますので、二人三脚で“無限の荒野”を切り開いている感じがよいか(笑)。

また、公募で外部から来た者としての役割も大いにあると思います。土佐町のような中山間地では、事業ポテンシャルが限定され、民間企業同士の競争原理が極めて働きにくい現状があります。行政が公的資金を投じてのスタートアップ支援も長期

の継続は難しく、だからこそ一般社団法人という経営形態を選じたのだと着任からしばらくして腑に落ちました。当法人の運営資金は、カヌーテラスの指定管理、カヌー関連事業の補助金が大半を占めており、その現状から法人運営のガバナンスならびに資金の使途に関する透明性の確保は絶対条件です。中山間地の濃密な人脈や助け合い精神を最大限生かしつつ、健全な経営を担保していくことは、当たり前のことながら案外最も重要なミッションなのかなと思ったりしています。

### Q コミッションで働く魅力ややりがいは何ですか。

一番に挙げたいのは土佐町の自然の素晴らしさです。朝玄関を出て、景色を見て、深呼吸をするだけで体の細胞がいきいきしてくるのを実感します。食材がまた秀逸で…何の話がわからなくなってきましたね…話をもとに戻すと…自分が何か責任を持って役割を果たしていこうと思う時、その範囲というか規模感は結構大事なんじゃないかと思っています。

土佐町の数千人という人口は、決してハンディではなく、強みにしていける可能性が大いにあることをこの地に来て確信しました。町の人々と役場と一緒に地域のあるんな企画をやってきた素地がある、巨大な投資は必要なく実施後の効果もダイレクトに把握しやすいなど、コンパクトならではのメリットは多い。そのことがここで働く魅力とやりがいに密接につながっていると思います。

### Q コミッションで働く難しさは何ですか。

バックグラウンドが異なる人々といかに連携してビジョンを実現していくかにつきると思います。当法人のメンバーだけを見ても直接雇用は私のみ、それから土佐町で生まれ育った町職員、全国から集まった地域おこし協力隊の集合体ですから、出身や雇用形態はもちろん、それぞれの働く目的やキャリアプランも様々で、ベクトルを合わせる難易度は民間企業のそれと比べても次元が異なります。また、当法人の設立趣旨からすると、利益追求が目的ではないけれど、投資効果はしっかりと示していく必要がある。その辺りの立ち位置や具体的に何をしているところなの?といった町民の素朴な疑問も含めて、丁寧に対応しながら目指すべき方向を見失わないようにすすめていくことが、なかなか一筋縄ではいかないと感じています。

### Q 今後取り組みたいことは何ですか。

地域振興は今、大きな転換点を迎えているのではないのでしょうか。例えば、先生の働き方改革が発発点となった学校運動部活動の議論は、中山間地に暮らす子供たちにとって、スポーツの体験や修練の機会そのものを根こそぎ奪うリスクを内在しています。また、ツーリズムに関しても地域の住民や働いている人々にフォーカスした“今そこにある魅

力”を発見する旅に注目が集まっていますね。そのような社会動向や地域のニーズの変化と我々が手掛けている取り組みをぶつけてみて、これからすすむべき道筋をクリアに描くことが重要だと考えています。併せて、それを実現する人員体制も着実に整えていきたいと思っています。

### 今後スポーツコミッションに関わりたい方に一言

“スポーツと関係なくても大丈夫!”

スポーツとは無縁の私でも町の皆さんに温かく迎えてもらい充実した日々を過ごしています。何となく“役に立っている実感”がそう勝手に思える理由かもしれません。自分ができること、できそうなこと、苦手なこと、助けてほしいことをオープンにすることを心がけています。ご興味があれば是非一度土佐町へ、お待ちしております!

### PROFILE

一般社団法人  
土佐町スポーツ  
コミッション  
専務理事・事務局長  
古賀智志氏



- 1963年 ▶ 福岡県出身
- 1986年 ▶ 大学卒業後、テルモ株式会社に入社
- 1999年 ▶ 本社内異動、人事、広報の関連業務を歴任
- 2011年 ▶ ドイツ企業との合弁会社に出向
- 2018年 ▶ 本社に戻り、国内組織改革のプロジェクトを担当
- 2021年 ▶ 土佐町スポーツコミッションの事務局長に就任
- 2022年 ▶ 同 専務理事を兼務、現在に至る